

# CTD 船上オペレーションの手順 海洋大循環分野

KH-03-1 向け, 平成 15 年 6 月 5 日

詳細は「白鳳丸 CTD 船上局マニュアル」を参照のこと

## ● 準備

- CTD 野帳記入  
野帳番号 No. ... を埋めて「測点名」および「ファイル名」「オペレータ」を書いておく
- データの取り込み準備 (PC)  
観測既存データ再生 (608+43)  
Acquire and Display Real-Time Data  
Store Data on Disk = Yes 【確認】  
Output Data File Name = ファイル名【測点番号 + D.DAT を入力】  
Display File [.DSP] = S6000.DSP 【深度が多少違っていてもいじらないこと】  
Misc Run Parameters = <Press Enter to Modify>  
Header Form = <Press Enter to Modify>  
【測点名・緯度・経度・オペレータ名を変更】
- 周辺機器  
採水指令器  
SIGNAL SOURCE が FISH に入っていることを確認
- 準備完了の報告  
「3 研準備できました」

## ● 観測開始

- 水面下 10m まで下げて待機してもらおう  
「ウィンチ、CTD を水面下 10m まで下げてそこで待機願います」
- CTD が水面に入ったところで採水指令器へ電源を投入  
決して船上で投入してはならない  
電源投入後 CHANNEL DISPLAY の値が 0011 になるまで待つ  
その後 さらに 2 分 待つ
- CTD を海面まで上げてから繰り出してもらおう  
「CTD を海面まで上げてから繰り出し願います」
- CTD 水面にてデータ取り込み開始 (PC) F10  
「水面」との連絡が入ったらただちにデータの取り込みを開始する
- CTD 野帳記入  
横のデータモニタの表示の通りに「日付」～「水深」の左欄に開始時の情報を記入  
採水器室からの報告に基づき「表面採水」と「研究用海水」の各項を記入

## ● 最深層

- 海底に注意 (PC 監視)  
アルチメータの値で海底上 40m のところから「ウィンチ、スロー願います」  
海底上 20m のところで「ウィンチ、ストップ願います」
- CTD 繰り出し停止
- データ取り込みの停止 (PC) **Ctrl**+**F1**
- 下げデータのバックアップ (PC)  
**ESC** を何度か繰り返し最後に Yes を選択して DOSSHELL の画面まで抜ける  
DOSSHELL にて「File backup」を実行
- データ取り込み再開の準備 (PC)  
観測既存データ再生 (608+43)  
Acquire and Display Real-Time Data  
Store Data on Disk = Yes 【確認】  
Output Data File Name = ファイル名【測点番号 + U.DAT を入力】
- CTD 野帳  
採水層の表から採水の「予定深度」を決めて記入 (可能なら下げの間に前もって記入)  
横のデータモニタの情報をそのまま読み取って「日付」～「水深」の真ん中の欄を埋める  
「ワイヤー長」を埋める
- データの取り込み開始 (PC) **F10**
- 採水 (PC) [次項「採水」を参照のこと]  
採水がなくても CTD 野帳の最深層の項目に水圧を記入すること
- ウィンチ巻き揚げ  
「ウィンチ、巻き上げ揚収願います」  
巻き上げ速度が速くならないときは「ウィンチ、巻き上げ速度 1.2 で願います」

## ● 採水

- PC 操作
  1. **Ctrl**+**F3**
  2. ボトル番号入力 (ここまで用意しておいて良い)
  3. リターンキーで採水
- CTD 野帳  
うまく行ったら「応答」の項に「」ダメなら「×」

## ● 船上に揚収するとき

- データ取り込み終了 (PC) **Ctrl**+**F1**
- 採水指令器の電源を切る  
必ずデータの取り込みの後に電源を切ること
- CTD 野帳  
横のデータモニタの情報をそのまま読み取って「日付」～「水深」の右欄を埋める

## ● 観測終了後

- 上げデータのバックアップ (PC)  
DOSSHELL の画面まで抜けて「File backup」